

学校再開 ガイドライン

〔 登校前・登校時 学校生活 授業中 給食 部活動 〕



北島中学校

登校前・登校時・登校後

毎朝の検温 間隔をあける 近づきすぎないように

生徒は毎朝、家庭で検温を行い、発熱やだるさなどの風邪症状がないかチェックして、「健康観察表」に記入する。

平熱より高く、風邪症状がある生徒は、自宅で休養する。(登校しない)

登校時にはマスクを着用する。

会話を避け、近づきすぎないように一列で登校する。

(自転車通学生は交通ルールを守り、並進をしない。)

こまめな水分補給のために、飲み物を持参する。

登校後、各教室に入る前に、手洗いやアルコール消毒等を行う。

担任は、朝の学活でマスクの着用について確認し、発熱症状等がないか健康観察を行う。(「健康観察表」の活用)

検温を忘れた生徒は、学年準備室で体温をはかる。

学校生活

こまめな手洗い マスク着用・常に換気 近づきすぎない・人に触れない

- 学校は、どのように配慮しても「3密(密閉・密集・密接)」の状態が発生し、感染拡大の契機となりうる場である。従って、生徒同士の不要な会話や接触を避ける努力をすることが重要であることを生徒に理解させる。

- 教員は、生徒に体調不良が見られる場合、養護教諭に報告、相談し、発熱を確認した場合や新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある場合は、直ちに保護者に連絡し、帰宅させる。(保護者の迎え等)
早退時の荷物の準備は、教員(または本人)が行い、他の生徒にはさせない。

- 常にマスクを着用する。

- 手洗いと水分補給をこまめに行う。

- 換気のため、教室は対角線上に2方向(運動場側、廊下側)で窓を開ける。
休み時間には、出入口のドアも開放する等、換気を徹底する。

- 水道蛇口、ドアノブ、手すり、スイッチ等、学校の共用部分は、できるだけ触れる回数を減らす。学年で決まった時間にアルコール等で消毒する。

- 校内では、生徒同士の距離をできるだけ離すとともに、大声を出すことや身体に触れることは極力控えさせる。

授業中

マスク着用 近づきすぎない 人に触れない

- 隣の人との間隔(机)をできるだけ広くとる。
- 提出物等を提出する場合は、密にならないようにスペースを確保する。
- 物(文房具等)の貸し借りはしない。
- テストやプリントの丸つけは、交換せず自分でする。
- グループ活動は避ける。

ペア学習等の話し合いは短く行い、ホワイトボード等を効果的に使う。

- 音楽科では、歌唱やリコーダー演奏はできるだけ避ける。
- 家庭科では、当面の間、調理実習はしない。
- 体育科では、室内外を問わず十分な間隔をとって集合し、できるだけ密集を避けるようにする。

運動については、当面の間、個人でできる運動を工夫して行うことにより、密接・接触の多い運動は、極力避けるようにする。

マスクを着用しての激しい運動は避ける。

給食

手洗い・消毒の徹底 机を離す しゃべらない

- 食事の前には、給食当番はもとより、生徒や教職員全員が手洗い・アルコール等による消毒を徹底する。

- 給食の配膳を行う生徒と教員は、次のことを必ず確認する。
 - ・体調不良者はいないか。
 - ・手を洗ったか。消毒はしたか。
 - ・配膳は無言で行い、必ずマスクを着用する。

- 配膳をしない生徒は、配膳が終わるまで静かに待つ。

- 食事をする際には、机を向かい合わせにはせず、座席の間隔をできるだけ空けて、飛沫^{ひまつ}を飛ばさないように会話を控える等の対策を行う。
 - ※ 食事をする時はマスクを外すことから、近距離で会話をする状況は、特に感染リスクが高いことを周知する。

- 片づけは、残食物や飲み残しの牛乳等が飛散しないように注意する。
また、残食物(おかず・汁物・牛乳, 等)をこぼさないよう、決められた要領で、食器や牛乳パックを返却する。

部活動

必ず指導者と一緒に できるだけ離れて活動

- 部活動は、生徒に任せて実施するのではなく、生徒の健康・安全の確保のため、教員や運動部活動指導員、外部講師等の指導の下で実施する。
- 手洗い、アルコール消毒、マスク着用（競技による）、換気、水分補給等、基本的な感染症対策を徹底した上で実施する。終了後の手洗い、うがい等を徹底する。
- 活動に際しては、生徒間の距離をできるだけ空けて、大声での会話や発声は避ける。
- 「北島中学校部活動（運動部・文化部）に係る活動方針」に従い、月毎の活動計画を立て、「3密（密閉、密集、密接）」を避けた活動となるよう、活動内容を検討する。
- 疲労により感染リスクが高まるため、過度な運動は控える。
- しばらくの間は、集団での活動が十分には行えないため、個人練習がしやすい環境を整え、基礎体力等を養うことを推奨する。
- 部室等の利用に当たっては、短時間の利用とすることや、一斉に利用させないことで、密集を防ぐようにする。
- 発熱やだるさ等の風邪の症状が見られる生徒は、部活動への参加を見合わせ、自宅で休養する。